

日本共産党市議団の市政アンケートのまとめ

2014年6月30日

日本共産党名古屋市議団

日本共産党名古屋市議団は今年4月から市政アンケートにとりくみ、これまでに約4,600通の回答が寄せられました。ご協力いただいた市民のみなさんに、心から感謝いたします。

アンケートの方法は、アンケート用紙（A4版表裏2頁）を返信用封筒とセットし、市内全区に無作為に配布し、返信されたものを集計しました。

当市議団では、これまで2年に1度市政アンケートを実施してきました。今回は、自由記入欄を大幅に増やし、市政・国政への怒り、日本共産党への期待・要望などたくさん意見が寄せられ、特に若い世代からの書き込みが目立ちました。今後の議会活動、市政改革に生かしていく決意です。

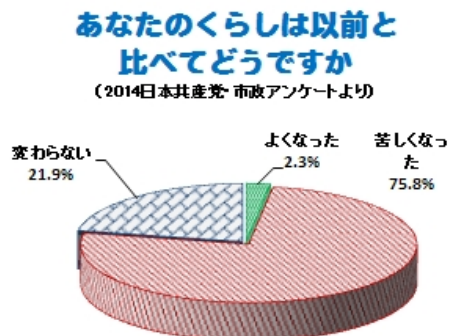
アンケートは現在も連日、返信されてきていますが、このうち4,255通の中間集計ができましたのでその概要をご紹介します。



1. 市民生活と消費税増税

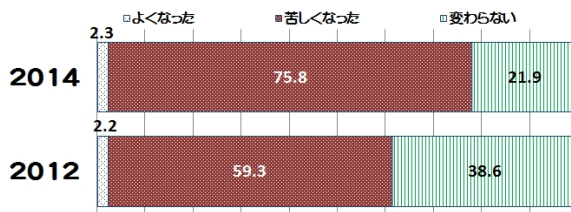
(ア) くらしの変化

この間のくらしの変化についてたずねたところ、前回（2012年）のアンケート60%を大きく上回る、76%の人が「苦しくなった」と回答しました（詳しい内容は資料集をご覧ください）。



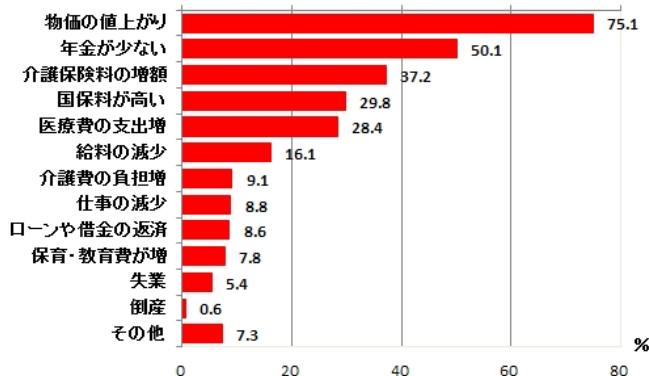
あなたの暮らしは

（日本共産党市政アンケートより）



苦しくなった原因は

（2014年日本共産党市政アンケートより）



その原因は、全世帯を通じてトップが「物価の高騰」でした。4月からの消費税増税やアベノミクスによる急激な円安、原油価格高騰などが背景にあると見られます。

2位以下をみると、60代以上は、安倍政権の社会保障解体路線を反映して、「年金が少ない」「介護保険料が高い」をあげています。

50代以下は、「給料の減少」「保育・教育費負担」をあげています。意見記入欄には「消費税率があがっても給与は上がらない。大手のみの給与増額は中小企業にはまあるない」（天白区40代女性）など切実な訴えが寄せられています。大企業を応援し、大企業がもうけをあげれば、いずれは賃金、家計にまわってくるという、アベノミクス

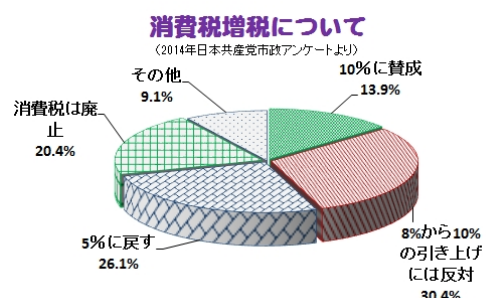
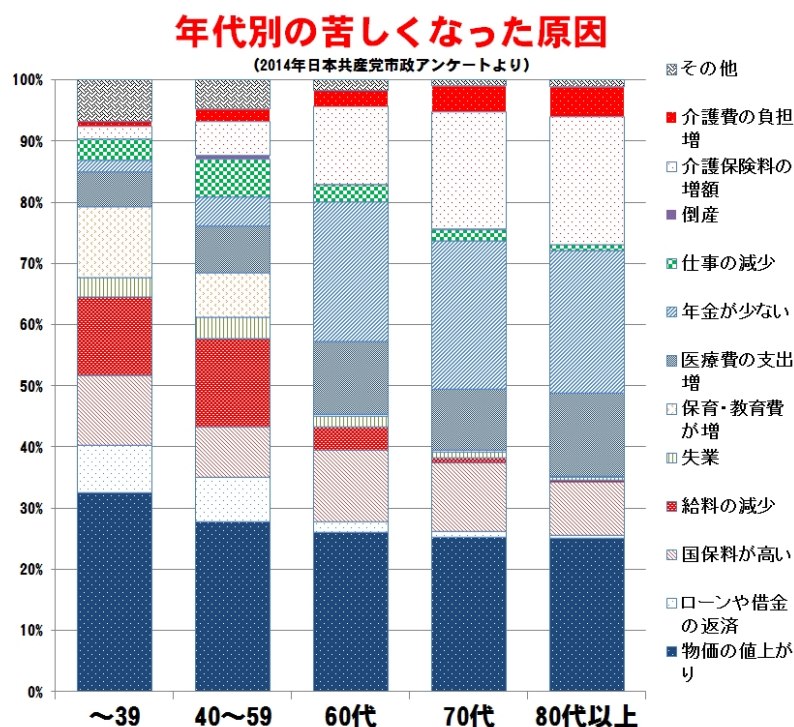
は真っ赤なうそであることがはっきり裏付けられた格好です。

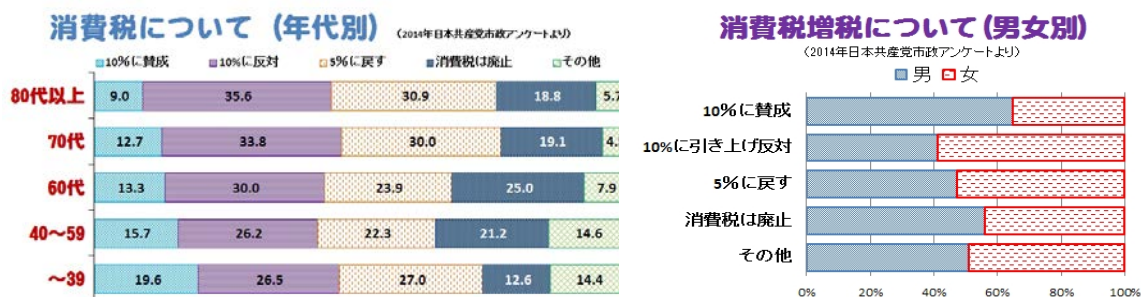
なお、20代の2位は「国保料が高い」です。瑞穂区の20代の派遣社員の男性は、「国民健康保険料で毎月1万5千円の負担があって、経済的に痛手です。もっと安くしてほしいと思っています。名古屋市内で、正規雇用がもっと生まれる体制を整えてほしい」と訴えています。

（イ）消費税増税

物価高騰で市民生活が悪化するなか、安倍政権は、8%から10%へ、さらなる消費税の増税をねらっています。この問題についてたずねたところ、「さらなる引き上げには反対」が30%、「5%に戻す」26%、「消費税は廃止」21%と、8割近い人が消費税増税に反対の立場を示しました。

意見記入欄には、「我が家は給料もあがらず、残業も減らされたので毎月の食費、電気代が値上げされたのできついです。これで10%になったら何を楽しみに生きていけばい





いのかわからなくなりそうです」(中村区 30 代女性)、「8 %でもキツイ。払った分、教育費や医療費が無料になるなど、返ってくるものがなければ、やってられない」(瑞穂区 20 代女性) など怒りの声がたくさん寄せられています。

市民生活に重大な影響を及ぼす、消費税増税はやめるよう、市としても国にしっかりモノをいうことが求められます。

2. 名古屋市は市民の願いに応えているか

(ア) 市政にのぞむこと

トップは「ムダな公共事業の削減」、次いで「敬老バス制度の堅持」「原発ゼロ・自然エネルギーの活用」の順でした。さらに、国保料や介護保険料・利用料などの社会保障負担の軽減や、医療体制の充実が上位にきています。

世代別でみると、30 代・40 代の子育て世代は、「保育所待機児童の解消」「保育料の値下げ」が多く、20 代以下では「国保料の値下げ」が多いのが特徴です。

一方、河村市長がすすめている名古屋城天守閣の木造復元や名古屋駅周辺開発、金城ふ頭の開発などの大型公共事業は、いずれも最下位ランクでした。

市政に望むことは

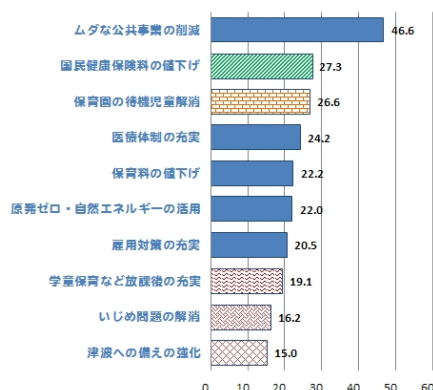
(2014年日本共産党市政アンケートより)



市長選で河村市長に投票したという、天白区の20代の男性は「(河村市長が) 最初に掲げた『減税』や『市長の給与などの削減』に賛同し、投票したものの、SLを走らせたり、目立とうとすることへの税金の無駄遣いが不満です。働いて納税する側からすれば、少しでも無駄をはぶいてほしい」と、意見を寄せています。

市政には、不要不急の公共事業よりも、福祉・市民サービスを充実させて、国の悪政から市民生活を守ることが、強く求められます。

望むことベスト10 (～39)
(2014年日本共産党市政アンケートより)

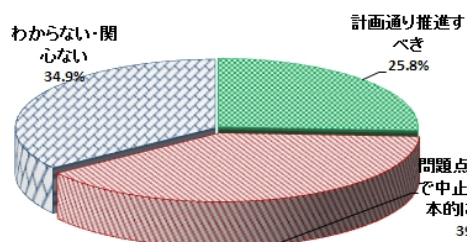


(イ) リニア中央新幹線計画

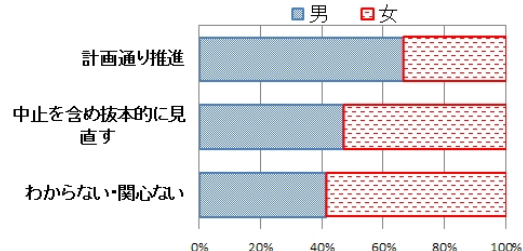
河村市長はこうした市民の願いにそむいて、リニア計画を「起爆剤」にした名古屋駅周辺の大改造に巨額の税金をつぎ込もうとしています。

リニア計画に関しては、自然環境や地下水への影響、掘り出した土の処理方法、電磁波による人体への影響など無数の問題があり、地元だけでなく自然保護団体から強い反対が出されています。

リニア新幹線について
(2014年日本共産党市政アンケートより)



リニアについて (男女別)
(2014年日本共産党市政アンケートより)

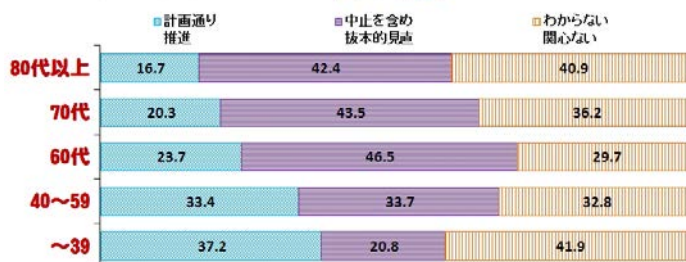


「中止を含め抜本的に見直す」が39%で最も多く、「わからない」35%、「計画通り推進すべき」29%となっています。

日本共産党市議団はこの間、リニア計画の問題を広く市民のみなさんに知っていただくよう学習会を企画するとともに、今月12日には政府交渉を行ない、計画の中止を含め、地元住民の要望を関係省庁に直接届けてまいりました。

今後も同問題での議会論戦や地域での学習会、申し入れなどにとりくんでいきたいと思っています。

リニアについて (年代別)
(2014年日本共産党市政アンケートより)

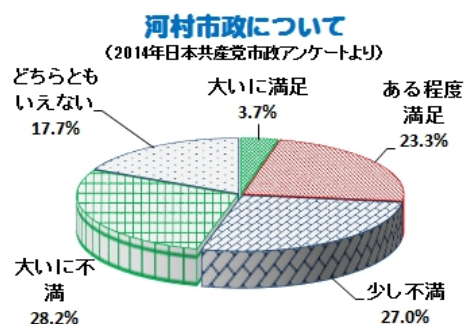


(ウ) 市政への評価

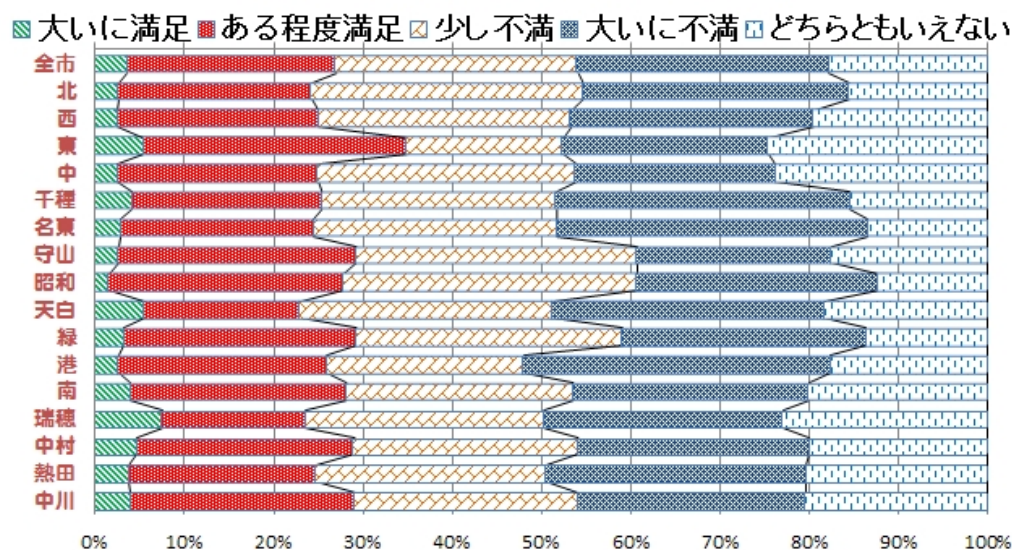
「大いに満足」と「ある程度満足」が合わせて26%なのに対し、「大いに不満」「少し不満」は55%と、不満派が満足派の倍近くになっています。

自由記入欄には、「河村市長は品が無い」「パフォーマンスだけで中身がない」といった声や、「無認可保育所を増やして待機児童をどうにかしよう」としている。アパートの一室みたいところで子どもはのびのびと育たない。今のつけが何十年か後にくるようで怖い(西区20代女性)、「高齢者の楽しみである、鯉城学園の授業料の大幅アップに義憤を感じる」(名東区70代男性)などの声が目立ちました。

「満足」という人でも、「減税よりも、適正な税金の使い道をご提案いただきたい」(昭和区30代男性)「名古屋城に金かけすぎ」(同20代女性)などの意見を寄せています。



河村市政について(区別)



3. 市民の声

議員による嘱託職員採用の口利き問題などいっぱい

意見記入欄には、「河村氏の議員団にはあきれてものが言えない」(北区20代男性)、「論外です。税日本や自民党などの政治家は庶民の苦しさをわかっていない。」(守山区の50代男性)などの声が寄せられました。

日本共産党市議団は、議会みずからエリをただし、二度と不正が起こらないよう議員の政治倫理条例をつくるなど、議会改革に全力をつくす決意です。

その他、多くの声が寄せられました。別紙に主な内容をまとめました。